

金融市場NOW

# エンゲル係数 29年ぶりに高水準

## 共働き世帯の増加など社会構造の変化が上昇要因か

- ▶ エンゲル係数が29年ぶりの高水準。共働き世帯増加による調理食品などの購入増加が上昇の背景。
- ▶ 勤労者世帯の同係数も1990年以来の高水準。円安傾向による加工食品等の価格上昇が要因か。
- ▶ 働く女性の増加など社会構造の変化も要因とされており、今後の消費動向が注目される。

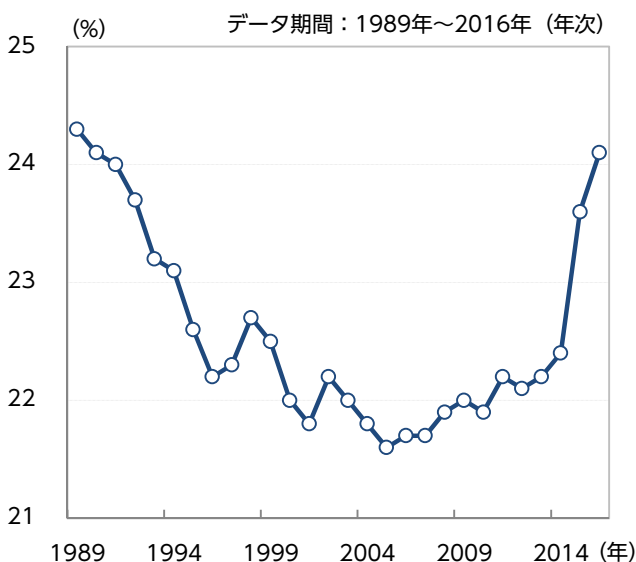
総務省が2月17日に発表した2016年の家計調査速報によると、家計の支出に占める食費の割合である『エンゲル係数』は、2人以上の世帯で前年より0.8ポイント上昇して25.8%となりました。1987年以来29年ぶりの高水準です。食品価格が上昇したほか、共働き世帯の増加で調理食品などの購入が増えたことが背景にあると考えられます。

勤労者世帯のエンゲル係数（農林漁業世帯を除く）は24.1%となり、1990年以来の高水準となりました（図表1）。家計の支出のなかで食品は他の支出に比べて削りにくく、一般的に『エンゲル係数が高いほど他の支出に回す余裕がなく、経済的に苦しい』とされ、経済が発展途上にあるときは高く、成熟すると低下してくる傾向があります。消費者物価指数（CPI）をみると、2016年の総合指数は0.1%低下したものの、食料は円安傾向で原材料が上昇し、加工食品等が値上がりしたことから1.7%上昇となっています。

働く女性の増加も食品への支出増につながっているようです。総務省が発表した労働力調査によると、女性の就業率は48.9%と前年比0.9ポイント上昇し、1993年以来の高水準となりました（図表2）。勤労者世帯の食品への支出は、『時短』につながる弁当や総菜セットなどの調理食品等の購入を背景に増加しています。

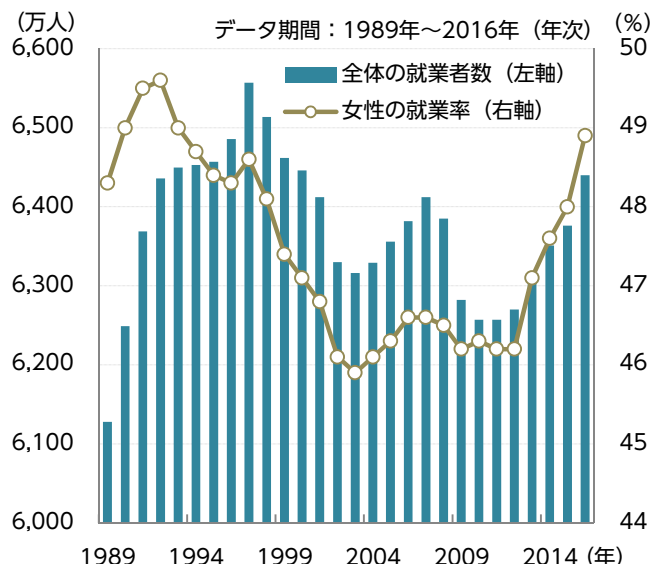
エンゲル係数が上昇する一方で、勤労者世帯の消費支出は実質で1.7%減少していることから、食品以外の衣料品などを買い控えて食品の購入に充てているとも考えることができます。共働き世帯や高齢化の進展などの社会構造の変化とともに、今後の消費の動向が注目されそうです。

図表1：近年、エンゲル係数は急上昇



※2人以上の勤労者世帯（農林漁業世帯を除く）  
出所：総務省「家計調査」を基にニッセイアセットマネジメントが作成

図表2：女性の就業率は4年連続で上昇



※2011年は就業者数のデータがないため前年と同数値を使用。  
出所：総務省「労働力調査」を基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。  
商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会